

静岡旅にでかけよう



静岡市清水区

移動支援サービスを利用して、介助者と清水港周辺の旅に出かけました。

ひまわり通信

Vol.6 2021.9.

“どんなに重い障害があっても地域で共に生きる社会”を目指して

発行：特定非営利活動法人 ひまわり事業団
静岡障害者自立生活センター

〒422-8006 静岡市駿河区曲金 5-4-58
TEL : 054-288-6068 FAX : 054-287-4922
E-mail : himawari@scil.jp HP : <https://www.scil.jp>



車いすで楽しむ ウォーターフロント 清水港

「♪清水み～などの名物は、お茶の香りと
男伊達～（略）粋な小政の旅姿♪」

と、かつてディック・ミネに唄われた
清水港。

でも、若い世代の人たちにとっては、えっ
ディック・ミネって誰？

そもそも小政って何者？…ってカンジかも
知れませんね。

（ちなみに小政は森の石松などと同様に、
清水の次郎長の子分のひとりです）
最近の若者にとっては、清水と聞いて真っ
先に思い浮かぶのが、
エスパルスドリームプラザではないでしょうか？

（シネマコンプレックス）などもあり、一日中楽し
むことができる施設なのです。

今回は、このエスパルスドリームプラザを中心とし
た、ウォーターフロント清水港の車いでの楽しみ
方をご紹介いたしましょう。

なお、今回の取材では、当法人の運営する就労継続支援B型事業所それいゆの利用者、瀧島由美子さんと、介助者の一ノ宮薰さんに、ご協力をいただきました。

まずは、ジモティー（地元の人）には“ドリプラ”の愛称で慕われているエスパルスドリームプラザについて少しご紹介させていただきましょう。

エスパルスドリームプラザとは、Jリーグに所属するサッカーチーム、清水エスパルスの運営母体である鈴与の関連会社が経営する複合商業施設です。清水港に面した4階建てのビルで、巨大な観覧車が目印。

建物の中には「清水すし横丁」を始めとするレストラン街や「駿河みやげ横丁」などがあり、清水港で水揚げされた新鮮な海の幸や、静岡の特産品を堪能することができます。

また、「清水すしミュージアム」や、「清水サッカーショップ」、「ちびまる子ちゃんランド」、映画館



玄関口は
JR清水駅と
静鉄新清水駅

エスパルスドリームプラザへの玄関口は、JR清水駅と静岡鉄道新清水駅です。

どちらからも無料シャトルバスが運行されています。真っ赤な車体が目印の大型バスで、車いすのまま乗降可能です（すべての車両では無い）。毎日運航され、始発は9時台、最終は22時台です（平日は1時間に2本程度、休日は4本程度）。所要時間は約10分です。

船で港を満喫！



さて、車いすで清水港を楽しむ移動手段として、編集部がぜひおススメしたいのが、水上バスです。清水港には、みなとクルーズや貸切クルーズなども運行されていますが、ここは市民の足でもある水上バスを乗りこなして、エスパルスドリームプラザに加えて、世界遺産三保の松原や、東海大学海洋科学博物館（水族館）なども楽しんじゃいましょう！水上バスは、いわゆるクルーズ船とは違いますので、予約なども必要なく、リーズナブルな価格で乗船することができます。

もちろん天気が良ければ、海のかなたに雄大な富士山を眺めることができます。潮風に吹かれながら、ちょっとした船旅を味わうのもオツなもんですよ。車いすの場合、桟橋までは問題なくアクセス可能。水上バスに乗り込む際に、桟橋と舟との間に段差がありますが、係員が乗船の手助けをしてくれます。水上バスの内部は、残念ながらデッキ席（屋根付き）のみの利用で船内に入るのは困難です。



水上バスの乗降場所は以下の4つ。互いの乗り場は10分～15分で結ばれており、それぞれに見どころがありますので簡単にご紹介いたします。



・江尻乗り場

JR 清水駅東口から徒歩5分。「河岸の市」という清水港魚市場の一角にあり、ここには新鮮な魚介類をリーズナブルな価格で味わう食事処が充実しています。

・日の出乗り場

エスパルスドリームプラザに隣接してあります。

・三保乗り場

徒歩5分のところに東海大学海洋科学博物館があります。ここは駿河湾をはじめ約400種の海の生物が見られる水族館で、リュウグウノツカイやラブカ（深海のサメ）の展示が名物です。

・塚間乗り場

世界遺産三保の松原まで徒歩30分です。

車いすで観覧車に乗る

“ドリプラ”ことエスパルスドリームプラザの楽しみ方は色々ありますが、ここは清水港のランドマークにもなっている観覧車に乗っちゃいましょう。

シーサイドにそびえる観覧車の中からは、晴れていれば駿河湾と雄大な富士山、そして遠く伊豆半島まで見渡すことができます。また夜景も素敵。デートスポットに持ってこいです。

ところで、「観覧車って車いすのままで乗れるの？」と疑問に思う皆さん、今回は取材協力者のお二人にトライしてもらいました。

「車いすじゃ無理かもねえ～地面と観覧車の間はかなりの段差だもんね。まあ当たって碎けろだ！」

…と乗り場まで行くと、バイト学生らしき若い女性係員が「すいませんちょっとお待ち下さい」。しばらくすると、屈強そうな男性スタッフと別の女性スタッフがやってきて、女性スタッフ二人が動く観覧車を前と後ろから引き止める間に、男性スタッフが瀧島さんの身体をグイと持ち上げるとそのまま観覧車へと移乗してくれたのでした。

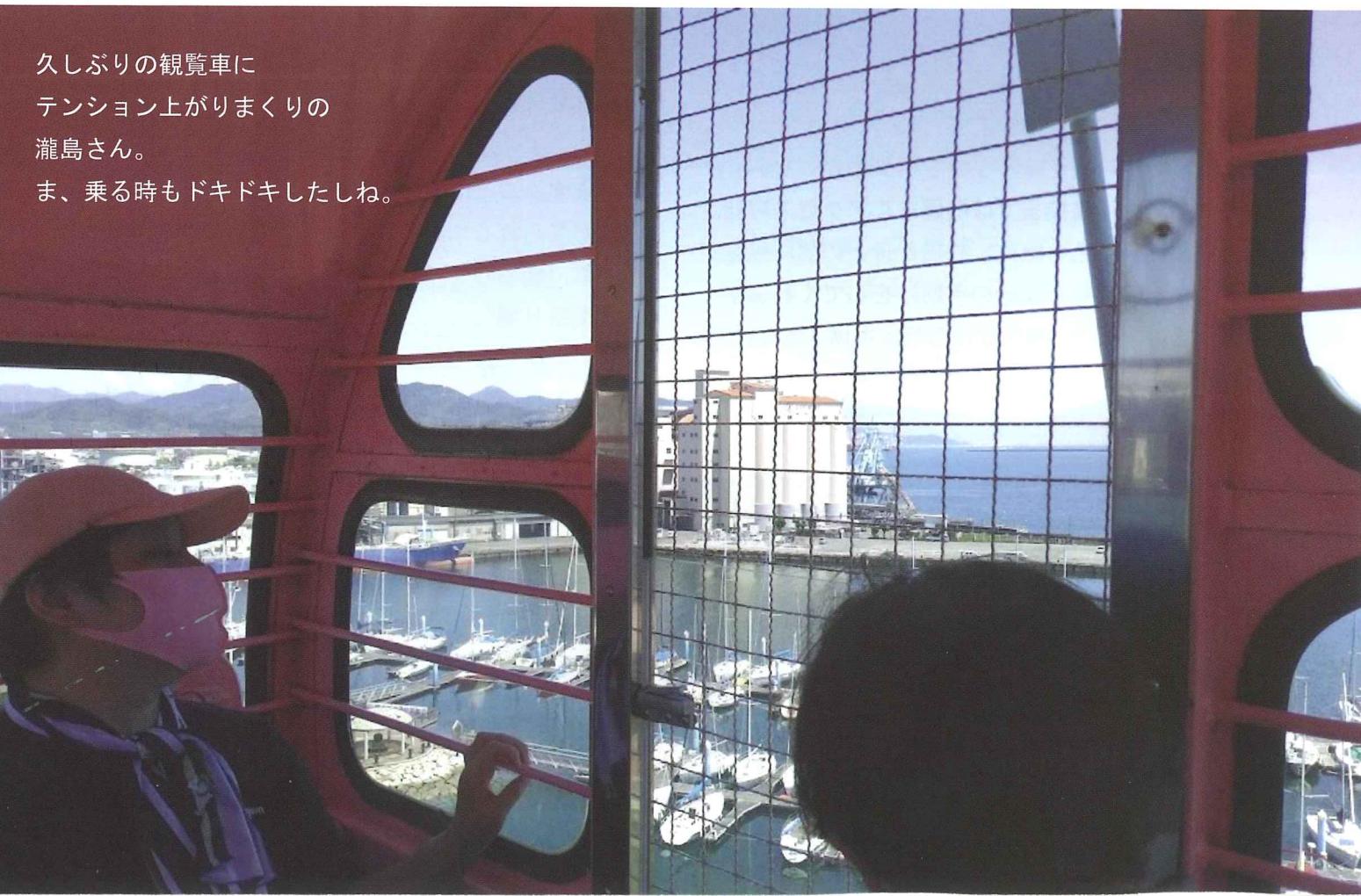
久しぶりの観覧車に
テンション上がりまくりの
瀧島さん。
ま、乗る時もドキドキしたしね。



「スゴイカ技（ちからわざ）！」

車いすでも乗れるように配慮して頂いたのは
ありがとうございました。感謝です！

最近は、車イスでそのまま乗り込める所以できる観覧車が各地で設置され、今まで乗り場で待機していた車いすユーザーも天空の散歩を楽しめるようになってきています。ドリプラの観覧車にもバリアフリーなゴンドラを設置してもらえたなら、より多くの市民が楽しめますね。期待しています。



エスパルスドリームプラザで 海の幸に舌鼓を打つ

冒頭でご紹介したように、建物の中には「清水すし横丁」を始めとするレストラン街や「駿河みやげ横丁」などがあり、清水港で水揚げされた新鮮な海の幸や、静岡の特産品を堪能することができます。

また、「清水すしミュージアム」や、「清水サッカーショップ」、「ちびまる子ちゃんランド」、映画館（シネマコンプレックス）などもあり、見どころ満載。家族や友人と一日中楽しむことができます。

今回の取材では、協力者のお二人に、ランチで新鮮な海の幸を堪能していただきました。二人がバンノウ水産の海鮮食堂で注文したのは、静岡名物、生シラスとゆでシラスと桜エビの三色丼でした。



いかがでしたでしょうか？

編集部おススメの、清水港を海と空の両方から堪能する旅。

最後にモデルコースとご予算は右図のようになります。ご参考までに。(ひとりあたりの金額、障害者割引利用) ぜひ、お出かけください。

文：奥村譲



JR 清水駅・静岡鉄道新清水駅 ↔エスパルスドリームプラザ	シャトルバス利用	無料
エスパルスドリームプラザで昼食	海鮮食堂で三食丼	1,600 円
日の出乗り場↔三保乗り場（往復）	水上バスで移動 (障割)	400 円
エスパルスドリームプラザで 観覧車に乗る		400 円 (障割)
東海大学海洋科学博物館見学		1200 円 (障割なし)
合計（1人あたり）		3,600 円

就Bそれいゆメンバーも
「目をつむる写真スタジオ」に参加



7月17日（土）番町市民活動センターにて、「目をつむる写真スタジオ」に参加してきました。

福祉とアートが交わる活動を行う成実憲一さんと一緒に、目をつむる写真を撮りました。

初めてデジカメを手にして写真を撮る人、目をつむって写真を撮ってもらう人、今までにない経験に最初は緊張気味でしたが、お互いに撮ったり撮られたりすることで、段々緊張も解けとても楽しいひと時になりました。

この日に撮った写真は、8月28日からグランシップで行なわれる「誰もがWonderful アート」で展示されます。



誰もが Wonderful アート 8月28日～9月12日 グランシップ6階展示ギャラリー

記念ノベルティに
就Bそれいゆの鵜沢大地さんの作品が採用



7月17日、沼津にしづてつストア大岡店がオープンしました。

オープン記念に配られるノベルティのマスクケースに、鵜沢大地さんの作品が採用され、オープン前の内覧会に招待していただきました。店内の SDGs コーナーには、大地さんの作品のトートバッグが販売されています。中央のモニターでは、大地さんをはじめ、それいゆのメンバーがアート活動を行う様子が流れています。

しづてつストア×アートコネクトしづおかの取り組みで、県内在住の作家さんを、より多くの人に知ってもらい、障害のある方の収入へつながる仕組みが考えられています。



文：鈴木梨可

new employee



よしなが みづき
支援員 吉永 瑞季

はじめまして。7月よりひまわり事業団の職員として働くことになりました吉永瑞季です。配属先は「就労継続支援B型それいゆ」になりました。

今まで私の人生において、福祉に関わることはまったくありませんでしたが、ひまわり事業団の「どんなに重い障害があっても地域で共に生きる社会を目指して」という言葉に、ノーマライゼーションの実現にむけて活動している事にとても心を惹かれ、障害福祉に携わってみようと思いました。

入職して、いろんな方と接しながら一人ひとりどんな障がいを持っているか把握していましたが、急に不機嫌になる方や急に泣きだしてしまう方に対してどのように接していいのかわからないことは、先輩職員に聞いて教えてもらいながら少しづつ理解していきました。それいゆの利用者さんはとても優しい方や面白い方が多くいつも笑わせてもらつてばかりです。これからも利用者さんと向き合い楽しく会話もしつつ仕事が出来たらいいなと思います。

まだまだ右も左もわからないことばかりですが、1日も早く戦力になれるよう日々努力してまいりますので、これからどうぞよろしくお願ひします！

地域と繋がる、生活介護さにいのバザー開催

「周辺地域の方々にひまわり事業団を知ってもらい、かつ交流出来る場を設ける」という想いのもと、バザー運営を行っています。



バザーの開催も今回で三回目を迎え、必要な物やどうやって売って行くのか等、緻密な話し合いから始まりました。周辺の住宅やお店へのポスティング、提供して頂いた品物の選別も慣れた様子で行い、抜かり無く準備を進めていくと、あっという間にバザー初日となりました。

今回は真夏での開催ということもあり、テントを張ったり、保冷剤を首に巻いたりの暑さ対策をしたにも関わらず、とにかく暑い！本当に溶けてしまうのではと錯覚する程でした。水分補給を十分にし、みんなで店番の時間を15分程度で交代と決め、何とか乗り切り初日終了。以前に比べて売り上げが減ったように思えたのは暑さが問題かと悩んでいましたが、二日目には常連さんの顔

も見え「頑張ってね」と心温まる優しい言葉や、「沢山買って行くから」と励みになる言葉も頂きました。三日目には、わいわい賑わいも見られ、当初、目的としていた「交流」も達成でき、笑顔で接客するみんなの顔がとても印象的で流れる汗がとても美しく見えました。

みんなで考え、みんなで作ったバザーも無事に三日間の開催を終え、最終的には「101個」もの品物が売れ、予想を上回る結果になり、驚きの声も上がりました。これも、うだる暑さの中で弱音も吐かずに頑張ったみんなの努力の賜物だと思います。今後は真夏や真冬と言った極端な気温の時期は避け、春や秋の過ごし易い時期での開催を目指していきます。

生活介護さにいの新しい取り組み、クリーン作戦。

地域の為に継続的にできることを考え
私たちにできること、クリーン作戦を始めました。

バザーの他に、地域のクリーン作戦と銘打つごみ拾いも1ヶ月に2回程行っています！ごみ拾い用のトングを持つどころか、ごみ拾い自体が初めて。と言う利用者さんも多く、まずはどの様に行うのか、レクチャーする所から始まりました。

初めて持つトングを上手く使えなく苦労したり、日差しが強い日は熱中症対策をしながらこつこつ頑張っていると周辺地域の住民の方々から「ありがとう！」や「お疲れ様！」と、暖かい言葉を頂くことも多々あり、その度にみんなも満面の笑顔で応えたりと微笑ましい一面を見る事が出来ました。

この様な地域貢献を通じて「ひまわり事業団」を、「生活介護さにい」を知ってもらう事が出来れば嬉しいです。私達も目印となるように、自分達で藍染めしたTシャツを着ています。今後はのぼりを作ったり事業団名の入った帽子を作ろう！と色々計画しています。

それが励みとなり、今後も続けて行くきっかけとなりますので宜しくお願ひ致します。

今後も地域で生活をする障がいを持った仲間たちを知ってもらう為、積極的に活動していくので、見掛けた際は気軽に声を掛けて頂けると嬉しいです。

文：吉岡佑真



『西豊田学区 地域支え合い実行委員会』と ひまわり事業団



私たちひまわり事業団の事務所のある曲金5丁目は、西豊田小学校区に位置しています。この西豊田地区では、平成23年から障害や高齢当事者といった「災害時要援護者」にスポットを当てて、総合防災訓練を7回にわたって開催してきました。元々は障害者協会の牧野さん(当法人理事)や県立短大の江原教授の声掛けで始まったこの活動は、今では自治会や民生委員、社協、PTAなどが活動の中心となり、要援護者を含む「リアルな」災害状況を想定した訓練を行っており、静岡市のみならず県内の他の地域からも注目されるようになっています。

ひまわり事業団は、活動開始当初から細々との活動に参加してきましたが、2年ほど前からグループホームななーらを中心に、地域に暮らす障害者と支援者の立場から、実行委員会へも出席させていただいています。



昨年度はコロナ禍の影響もあり、240名入れる体育館が90名参加に制限される中で、感染症対策を取り入れた避難所運営訓練を行い、ななーらからも利用

文：劉瑛哲

者さんと職員が参加してきました。

今年度、委員会では助成金を使ったモデル事業である「個別避難計画」(発災時の避難と安全確保に関する個別計画)。地域の協力を得て計画相談が中心となって作成し、障害者の安全と避難生活について、前もって計画しておきましょう、というもの)と結びつける形で、感染症対策を踏まえた避難所開設訓練を、12/11(土)に行う予定になっています。また、「住民参画による福祉と防災の連携」に関するガイドブックと啓発動画の作成を目標に、月1度の会合を中心に活動を行っています。

皆さんの住んでいる地区で、防災訓練が毎年どのように行われているか知っていますか？その訓練に、要援護者を想定したプログラムは含まれていますか？静岡県が「30年以内の震度7クラスの地震災害発生確率70%」と言われ始めてから、随分時間が経ちました。自分自身と家族を守るためにも、そして地域に暮らす助けが必要な人たちも含めた「誰一人取り残さない防災」についても、私たち一人ひとりが真剣に考えるタイミングに来ているのではないでしょうか。

グループホームななーら 私達が暮らす町、静岡市駿河区小鹿二丁目

ななーらのある小鹿二丁目、西豊田地区は以前から自主防災意識が高く日頃から万一に備えた訓練を行っています。ななーらの住人達も年1回行われる泊まり込みの防災訓練に積極的に参加していましたが、昨年はコロナの影響もあり規模を縮小しての開催・参加となりました。避難にあたり、ななーらの支援員のみならず、地域の方々が一緒に避難誘導をおこなってくれることにより、普段は見知らぬ人の関わりが苦手な住人達も、徐々に隣近所の方々に慣れ親しんでいく様子が見られるようになりました。感謝しています。今年の避難訓練は、コロナの影響もあり、どの程度の規模で開催されるかは現段階では未定ですが、規模の大小に関わらず地域住民として参加していく予定です。



ななーら住人の避難誘導を一緒に行ってくれた地区の皆さん

また、今年からななーら住人1人1人が町内会費を納めることができます、より地域に溶け込んだ関係性をつくるべく地域行事にも参加しています。

とはいえ、やはりコロナの影響でお祭り事等の楽しい行事は中止が相次いでいますが、地域美化の一環である清掃活動等にも積極的に参加しています。

こうした活動に参加することにより、町内の人達にもななーら住人の認知度が上がり、商店街に買

い物に行けば気軽に声を掛けてもらえることも増えてきました。

ななーら住人達には「ここが自分の暮らす町」であることを自覚してもらい、地域住民の方々には「ななーらの住人もこの町の人」として迎え入れられている関係性を更に深めていきたいと考えています。

文：清水かおり



今年、6月に行われた清掃活動の様子。

※ななーら住人達は話好きで体力に自信があります。草取りなど人手が欲しい時には是非お声掛けください。

障害者差別解消法改正

2016年に制定された障害者差別解消法。障害者権利条約の理念に基づき、障害のあるなしによって分け隔てられることのない、共生社会を実現することを目的とした法律です。この法律の改正案が令和3年5月28日、参議院本会議で、全会一致で可決され成立しました。

今回の改正の大きなポイントは、これまで企業や店舗など民間事業者には“努力義務”とされてきた“合理的配慮”が、国や自治体と同じように“義務”として課せられるという点です。



【合理的配慮の提供義務化】

法律で定められている合理的配慮とは、障害のある人とそうでない人の機会や待遇を平等に確保し、支障となっている事情を改善、調整するための措置です。

しかし、これまで既存の建物や環境を改修、変更することは、民間事業者に対しては努力義務に留まっていたことや「過重な負担による正当化事由」などによりなかなか浸透していませんでした。

【“障害”は個人ではなく社会にある】

こうした意識を変えるのに欠かせないのが、“障害”は個人にあるものではなく、“社会”にあるという考え方です。世の中は、障害のない人を基準に作られているため、障害のある人にとっては、“見える壁”・“見えない壁”が至る

文：大川 速巳

ぼくらの 逸品

私が大学生のボランティア・アルバイトの頃からお世話になっている下川さん。仕事に熱中するあまり、私の思いを押し付けてしまったこともありました。いつも優しく・穏やかに「最近どう?」と声をかけてくれる大先輩。「あのころ」の思い出話が出て、一気に大学生気分に引き戻されました。これまで一緒に活動した仲間、ボランティアさんに関する記憶力はピカイチ! 今のお休みは、街を散策して、おいしいコーヒーを飲むこと。スローライフな下川さんの生活の相棒がスナフキン。仲間思いで、優しい、けどちょっと頑固な下川さんのコレクションを紹介します。

(取材: 宋裕子)

静岡市在住

下川 穎枝さん (54歳) 知的障害

1990年代前半、当時のひまわり労働センターで看板娘(笑)になったのが、最初の出会い。1991年頃から静岡障害者自立生活センターの活動へ参加。ライフワークとしてのピープルファーストとの出会いもこの頃から。当事者活動の楽しさ・エネルギー・魅力を知る重鎮の1人。現在、法人内の事業所、就労継続支援B型それいゆで生活支援員として従事している。



■スナフキンを好きになったきっかけは?

もともとはムーミングッズが好きで集めていた。その中で10年くらい前から主にスナフキンを主に集めるようにな。理由は緑色が好きだから(笑)。クローバーも好きでスナフキングッズが好みにピッタリだった。



その1: トートバッグ(タオル地)、
ポーチ(スマホの充電器を入れて使っている)



その2: マスク、ポーチ(普段から小物を入れて使っている)、がま口(口が固くて開けにくいのが難点…)



その3: パジャマ(写っていないが、ズボンもお揃い)、
バスケース

■スナフキンの魅力

緑が好きだから、スナフキンカラーが自分にパワーを与えてくれる感じがする。

休日は街を散策するのが好きで、雑貨屋さんでスナフキンを見つけると、ついつい買ってしまう。コロナでなかったら、埼玉県ムーミンバラーパークにも行ったかった。今からでも、お金をためて、旅行を計画したい!

パルコや県立美術館でムーミン展をやったときには見に行った。そこでの限定アイテムがあり、ついについたらしく買った(笑)。

お気に入りアイテムは、飾っておくというよりは普段から身に着けてみたい。



石居設計一級建築士事務所
代表

いしい ひでもと
石居 秀元 さん

静岡県静岡市出身
1943年2月生まれ 78歳

ひまわり事業団の「造り処」石居さんにお話を伺いました。

自己紹介、お願いします。

建築を学びはじめ、「リハビリテーション」という言葉がまだ耳新しかったころ、社会福祉系の建築を専門に設計している先生のところで「東京都心身障害者福祉センター（リハビリテーションセンター）」の建設を計画することになり、初期のリハビリセンターが東京都新宿区戸山町に建設されました。

→現・全国障害者福祉センター戸山サンライズ

（ページ右下参照）

ひまわり事業団との関わりについてお話し下さい

静岡障害者自立生活センターとの関わりは、ケア付き住宅研究会に参加したのがはじまりでした。ケア付き住宅研究会は、自立生活を希望するひとのための住宅を、行政・民間共に提供できるようにするために、毎月一度、自立生活センターの事務所で開かれていました。

野崎さんや渡辺さんを中心に、会のメンバーの行政への働きかけにより、その後の市営小鹿高層団地、市営登呂住宅など、他の車椅子利用者用のバリアフリールームの建設に結び付いたものと思います。

そして、その後も自立生活センターの事務所の移転のたびに車椅子用トイレの改修や、渡辺さんの自宅アパートのバリアフリー改修などの際に相談を受け、改修計画や設計を請け負いました。

渡辺さんは、いつもお会いしてもニコニコしていて非常に謙虚な、物事に対して誠実な方でした。ジャズのレコードを聴くのが趣味というモダンな一面もあり、今も懐かしく思い出されます。

現在、自立生活センターの障害者スタッフが渡辺さんの遺志を継ぎ、活動する姿は、これから後の人たちにも受け継がれていくのでしょうか。

ひまわり事業団との思い出についてお話し下さい。

センターの送迎バスの運転手をボランティアでしていた時のこと。

朝、バスに知的障害のあるSさんが乗ってきて、よく一人で大きな声で歌っていました。私もつられて下手な歌を負けじと大声で歌ったりしていました。

また、当事者と介助者と私の3人で釣りに出かけたこともあり、当時、清水港にあった釣りができるフロート（魚釣島→現在は福島で汚染水処理貯水用として活躍している）へ渡り、海釣りを楽しんだりしました。この時は、アジやイワシ、サバなどたくさん釣れ、中でも車椅子利用者のMさんはフロートの係の人が抱えるほどの大物の鯛を釣り上げ、皆で記念写真を撮ったことをよく憶えています。

現在、新たな釣りのための桟橋を港に建設中とのことで、完成したら、また自立生活センターの

みなさんと共に釣りに行きたいと思っています。

振りかえってみると、東京で社会福祉系の建築を学び、静岡に戻って静岡障害者自立生活センターの皆と出会い、試行錯誤しながら、あっという間に半世紀が過ぎ、微力ながら静岡市の福祉、障害者の自立生活発展に携われたと思います。

今まで仕事が続けられたのも、地元の方々の支えによるものと同時に、自立生活センターのみなさんには、苦しい時には勇気づけられ、又、楽しい時間も共有させていただいたことができました。なかなか満足のいく仕事はできませんでしたが、それでも、関係した方々のたくさんの助けがあり、今まで年月を重ねることができました。地元の方々、静岡障害者自立生活センターの皆様に感謝申し上げます。

「全国身体障害者総合福祉センター 戸山サンライズ」について

身体障害者にかかる各種の相談に応じ、身体障害者福祉センターの職員、身体障害者スポーツ指導者等関係者の研修を行うとともに、情報の提供、スポーツ、レクリエーション等の実施、又は、これらに必要な便宜を提供し、もって身体障害者の自立更生と福祉の増進を図ることを目的とする。

「国立身体障害者リハビリテーションセンター」が、埼玉県所沢市に新たに建設されるというプロジェクトができ、従前東京都下にあった3施設（肢体不自由者、ろうあ者、視力障害者の3施設）がすべて所沢に移転吸収されるという、きわめつきの大事業が打ち出されたことに端を発している。59年10月1日に竣工、同年12月9日（障害者の日）オープンする運びとなり、全国的な身体障害者を対象とした、わが国唯一の総合福祉センターが設立された。その後、身体障害者を中心とした機能リハビリや職業リハビリを展開する。現在は障害者福祉に関する研修会や講演会などを開催し、全国の障害者が訪れる拠点となっている。

参照：全国身体障がい者総合福祉センターホームページ



とおるのトーク

静岡にまでまん防が出るほどに、毎日右肩上がりで増える感染者、コロナワクチンは医療従事者は早く打てたものの介護職にはまだ行き渡らない。ぼくのところに来るヘルパーも打っていないヘルパーが多い。ただでさえ少ないヘルパーなのに一人倒れたら大変なことになる。介護職には目を向けていない政府、これって問題だよね。リモートで介護はできるはずもなく、接触も多い。くそ暑い中マスク着用で毎日、朝早くから夜遅くまで働いている。なにせ、介護は365日必要なのだから、そこが忘れられたら困るぞ。人が足りないのも、そんなことも一因になつてはいないだろうか？五輪より介護者ふ・や・せ・よ・な。

政府が言うところの安心安全な五輪が始まった。ホンマかいな、と突っ込みを入れたくなるのはぼくだけではないはずだ。それでも開会式ぐらいは見てやろうと寝床についたが、いつの間にか眠っていた。あの時裏では弁当を4000食も破棄していたんだよね。なんということをするのかとムカついた。食うものを粗末にするなんて最低だよ。

ぼくはルールを覚えられなくてスポーツ一般にあまり興味がない。テレビゲームならすぐに覚えるのに不思議だね。

にしても、2020今大会はとても理不尽なことが多すぎると思う。招致のときに掲げた「復興五輪」なのに今や復興や原発などだれも口にしないままになってしまったじゃないですか？それに1年延期したとはいえ、国民の二割しかワクチンを打たないままの見切り発車、開会直前にワクチン不足を明かした政府はいわばペテン師だよ。

64年10月10日の開会式は夕方だった。なので飛行機で描いた五輪を観ることができた。季節も秋でスポーツには向いていた。今回はと言えば酷暑の中で開催される。熱中症になる人が出できそうですね。放映権料をアメリカのメディアが高額で買い取るのだから儲け第一のIOCはアスリートより金だとばかりの姿勢だ。バッハ会長がベニスの商人のシャイロックに見えてくる。日本のテレビもメダル数えの前に報道すべきことがあるはずだよ。

ぼくはこの夏はやはり暑さに耐えきれず、地球温暖化を気にしつつエアコンに頼っている。

文：8月2日 静岡障害者自立生活センター 橋本とおる

【編集後記】今年度の機関誌の特集は、静岡県内を車イスユーザーと共に旅する記事でいこうと決まり、企画の段階では、皆で行きたい場所や体験したいことを案として出し合い、とても楽しい雰囲気の始まりでした。が、またしても新型コロナの拡大により、静岡県にも緊急事態宣言が発令されてしまいました。この機関誌の編集は、リモートワークに切り替え1人モクモクと作業をこなすこととなりました。提供される全ての写真はマスク姿で、「ん？この人の顔ってどんな感じだった？」と、思うたびに手が止まり、早くマスクのない生活に戻りたいなあ～と、願いながらの作業でした。

広報委員：真田妥世子